

平成 25 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告

平成 25 年度 夏休み子ども向け公開講座実施報告	1
• はじめに	2
• 平成 25 年度 大学公開講座事業委託実績報告	3
国語『読書感想文を書くために』	4
図画工作『夏休みの課題（ポスターや風景画）の制作』	6
音楽 I『みんなで箏をひいてみよう』	7
音楽 II『手作り楽器作って遊ぼう・音遊びするものこの指と～まれ!』	10
理科『楽しい理科実験』	11

はじめに

千葉敬愛短期大学
学長 伊藤勝博

「夏休み子ども向け公開講座」は、本年度で8年目を迎えました。この公開講座は、佐倉市の「市民公開講座事業（委託）」の一環であり、千葉敬愛短期大学が委嘱をいただいて今日まで実施してきた次第です。

今年度の公開講座のコンセプトは、昨年度と同様に“地域の子どもたちが有意義な夏休みを設計する上で活用できるもの”にしました。その内容は、【国語】「読書感想文を書くために」 【図画工作】「夏休みの課題（ポスターや風景画等）の制作」 【音楽 I】「みんなで箏を弾いてみよう」 【音楽 II】「手作り楽器を作ってあそぼう-音あそびするものこの指と～まれ」 【理科】「楽しい理科実験」の五講座で構成し、制作活動や体験的学習を取り入れたものです。

各講座を巡回すると、休憩もろくに取らずに黙々と制作に没頭している子、体験的活動に夢中になって全身で楽しんでいる子などを目の当たりにしました。その姿から、子どもたちの目標に向かう集中力と向上心の旺盛さに感心しました。

オーストラリアの心理学者である فرانクル は、人生の価値として三つの項目を挙げています。

その一つは、どのような些細なことからも創造の可能性は無限にあり、人生を楽しく充実させることができるという「創造価値」です。

二つ目は、自然の偉大さや美しさに直面して感動すること、人と人との触れ合いや人を愛することによって実現される「体験価値」です。

三つ目は、人間はどんな場合でも相手を思いやる温かい気持ちや、心の配慮を持つことができるという「態度価値」です。

そしていかなる場合でも人間には生きる意味があり、人生は最後まで生きる意味を失うことはないと結んでいます。

本公開講座の様子に目を移しますと、活動中の子どもたちは、どの子もきらきらと個々の輝きを見せていました。それは磨くほどに輝きを増すダイヤモンドの原石と同じです。私たちはそんな原石のかすかな輝きを見落とすことなく、気づき、磨くことに専念してまいりました。本講座が子どもたちにとって、かけがえのない「三つの価値」に繋がれば幸いです。

終わりにになりましたが、このような貴重な機会を提供してくださいました佐倉市教育委員会並びに関係者の皆様に対しまして、感謝と敬意を表します。

今年も子どもたちや保護者の皆様から、「去年も来たんだよ」「兄弟で夏休みのスケジュールに入れているんです」などのコメントを頂きました。これを励みとして、今後も、本学の教育資源（教育・保育等）を、地域のために生かしてまいる所存です。

平成 25 年度 大学公開講座事業委託実績報告

1. 趣旨

大学公開講座委託事業は、佐倉市との委託契約により、高等教育機関の持つ機能を生かした講座を展開し、広く市民に対し生涯学習を通じ、より豊かに生きるための学習支援を行うことを目的に実施した。

2. 内容

千葉敬愛短期大学教授陣の音楽や国語、理科など小学校科目の専門的な知識を活かし、子どもを対象とした体験的な活動の公開講座を実施した。

1. テーマ 「夏休み子ども向け公開講座」
2. 期日 平成 25 年 8 月 19 日（月曜日）～8 月 22 日（木曜日）
計 4 日間 9 時 00 分～12 時 00 分
3. 会場 千葉敬愛短期大学（佐倉市山王 1-9）
4. 対象 小学生（3～6 年生）

講座日	講座内容	講師	参加者人数
平成 25 年 8 月 19 日（月曜日）	【国語】 読書感想文を書くために	千葉敬愛短期大学 初等教育科 専任講師 鈴木 健一	15 名
平成 25 年 8 月 20 日（火曜日）	【図画工作】 夏休みの課題 （ポスターや風景画等）の制作	千葉敬愛短期大学 初等教育科 専任講師 久保木 健夫	25 名
平成 25 年 8 月 21 日（水曜日）	【音楽 I】 みんなで箏を弾いてみよう	千葉敬愛短期大学 初等教育科 非常勤講師 鈴木 由美子	15 名
平成 25 年 8 月 21 日（水曜日）	【音楽 II】 手作り楽器作って遊ぼう・ 音遊びするものこの指と～まれ！	千葉敬愛短期大学 初等教育科 教授 谷中 優	23 名
平成 25 年 8 月 22 日（木曜日）	【理科】 楽しい理科実験	千葉敬愛短期大学 初等教育科 専任講師 林 孝憲	25 名

3. 受講料

無料

国語『読書感想文を書くために』

講師：鈴木 健一 先生

講座日：平成 25 年 8 月 19 日（月曜日）

参加人数：15 名

講座内容について

（前半）講義形式の全体指導

次の観点について、資料を示したり子どもたちと考えを交流したりして、理解を深めさせ、関心を高めた。

- ア 「感想」とはどのようなものか。「感」とは。「想」とは。
- イ 感想を書くにあたっての心構え。
- ウ 感想文の大事な要素とは？
- エ 書くうえで大切にしたいこと。

（後半）個別指導

隣同士で持参した本を見せ合い、その本について知りたいことを三つ書いて相手に手渡した。（相手の知りたいことは、感想文の材料の一つになる。と説明した。）次に、台紙の枠内に選んだ図書名と選んだわけを記入させて個別に点検・指導をした。過不足なく書けている子どもには、文種に合わせた質問用紙を配って記入させ、点検した。この作業を複数回繰り返し、できたものを台紙に貼らせて終了した。

講座実施についての感想

一人一人違って当然のものなので、いかに個に目を向けられるかということが、ポイントになる。人数を絞っていただいたので、ある程度の個別対応ができたと思う。

どう書けばよいかを普段の学習で教わってきていない、ということだったので、その対応もしなければならず、感想文の完成までは、時間的に無理である。あとは自分でできる、というところまで持っていくことができたと考える。

実施についてどのような効果があったか

「感想」や「感想文」への認識を深めることができたのではないかとと思われる。また、読書感想文に欠かせない要素、書く上での手順や留意点にも気づいてもらえたはずである。何より、こうすれば書けるのだ、という自信を持ってもらえたと考えている。

その他

中学年と高学年の差は、思った以上に大きい。4年生の二人には消化しきれないことがあったと思われる。



図画工作『夏休みの課題（ポスターや風景画）の制作』

講師：久保木 健夫 先生

講座日：平成 25 年 8 月 20 日（火曜日）

参加人数：25 名

講座内容について

佐倉市内の各小学校で出題される夏休みの課題（図画工作科のポスター製作）を、本講座で実施した。例年、参加児童が事前にテーマを決め、必要な描画材料や資料を持参し、可能であればデッサンを描いてくることとしている。本講座では、参加児童のイメージや構図等を確認し、作品の発想や構想段階を共に考え、製作する形をとっている。講座の時間内で作品を完成させることを心掛けているが、作品が完成できない場合には、各自が自宅に持ち帰って仕上げることになる。昨年度に引き続き、今年度も、本講座に本学の学生がアシスタントとして 2 名参加した。子どもたちは、各自の考えに基づき、試行錯誤しながら、楽しく集中して製作することができていた。

講座実施についての感想

参加した子どもたちは、自分のイメージや想いをしっかり持ち、かなり明確にはっきりとした様子で製作に取り組んでいた。作品も全員が時間内に、おおよそ完成させることができた。本学から参加した学生アシスタントは、今回は保育志望の学生であったが、小学生と直接関わる貴重な機会となった。子どもの姿や反応等は、こうした場に実際に立ち会ってみなければわからないことが多い。今回は、造形活動を通して、その様子を肌で感じ取ることができ、学生にとっても収穫や手応えは大きかったようである。学生アシスタントの存在は、児童や保護者にも概ね好意的に受け止められていたと感じている。本講座の場合で考えると、こうした造形活動を通して、様々な人々が共に学びあい、交流できる機会や場を充実させていくことが大切なことなのだろう、と改めて感じた。

実施についてどのような効果があったか

地域の児童や保護者と造形活動を通して交流することができた。また、筆者や学生アシスタントにとっても、貴重な学びの機会となった。

その他

今後も、本学や図画工作に愛着や親近感を感じて頂けると幸いである。



音楽 I 『みんなで箏をひいてみよう』

講師：鈴木 由美子 先生

講座日：平成 25 年 8 月 21 日（水曜日）

参加人数：15 名

講座内容について

和楽器の代表である箏に触れ、演奏を体験し、また参加者全員での合奏を通して、「心のアンテナを高くしてお互いを察する」ことを経験する。そのような思いを持って始まった「みんなで箏を弾いてみよう」の講座も、今年で 3 回目を迎えた。申込み者 17 名、当日出席 17 名（出席 15 名 3 年生 1 名含む。欠席 2 名、他 2 名が当日参加を希望した保護者）であった。

今年は、毎回講座の最後に行っているミニ・コンサートに、音楽 II 「手作り楽器作って遊ぼう・音遊びするもの この指と～まれ!」（谷中優 教授）を受講した子どもたちとのコラボレーションも行った。

音楽はコミュニケーションツールであるという観点から、挨拶、自己紹介に始まり、箏の歴史、使用する道具の名称、使用方法、楽器各部分の名称を知ってもらった後、楽譜の読み方を伝え、演奏体験に入った。

爪をはめ、一の指を使い、絃を一から巾まで往復で弾くことを数回繰り返した後、「さくらさくら」（日本古謡）の練習をした。

全員で、曲はじめの指示を出すところから最後の音の音消しまでが出来るようになったあと、「さんさんさくら」（抜粋）（石井由希子作曲）の箏パート二重奏にチャレンジした。さくらのメロディーだけでなく、前奏、後奏にも挑戦した。パート分けは、希望者を募り、低音部を担当する児童には、ボランティアの学生が脇について補助をした。少し時間はかかったが、誰ひとり諦めることなく最後まで弾けるようになり二重奏を経験することができた。もう少し箏の可能性を知ってもらいたく思い、また、手作り楽器とのコラボレーションもあり、調絃替えを体験してもらった後、童謡「かえるの合唱」を練習した。

途中、二回の休憩をとり、その間、希望者は自主練習をしても良いとしたら、ほとんどが席から離れず箏を弾いていた。

ミニ・コンサートにおいては、全員でこの三曲を披露した。「さくらさくら」は、参加者全員での合奏、「さんさんさくら」は、高音と低音に分かれ二重奏の演奏ができた。「かえるの合唱」は、コラボレーション効果もあり、保護者の方々から感嘆の声が上がった。「手作り楽器」を受講した子ども達も合流し、お客様に保護者の方々をお迎えし、箏の演奏をした子ども達の集中力も素晴らしく、充実したコンサートとなった。

講座実施についての感想

今回は、箏を二十三面準備し、参加者 1 名に対し一面用意した。(申込人数よりも多く準備したのは、ボランティア学生と、毎年当日参加を望む保護者がいるため予備として用意した。) これは、大変良かった。参加した子ども達は、講座時間の大半、集中して箏を弾くことができた。昨年は、二人に対して一面だったので、ほぼ倍の時間、箏に触れていたことになる。

触れる時間が長いほど、その楽しさやおもしろさ、また大変さも感じられたと思う。講座終了後のアンケートには、「指が痛くなったが楽しかった。」「三曲も弾けるようになって嬉しかった。」「去年と違う曲が弾けるようになった。」という感想が多く寄せられた。

昨年の参加者が三名ほど、今年も参加してくれたことは、大変嬉しいことであった。

実施についてどのような効果があったか

箏を弾く上での技術的なことは僅かであったと思うが、何よりも箏という楽器に直接触れ、一曲を弾けるようになる達成感、皆で音を合わせる喜びを感じることができたと思う。

まとめとして、「手作り楽器を作ってみよう」を受講した子ども達とともにミニ・コンサートを行ったことで、練習と努力の成果を披露することができ、参加者は達成感を、保護者は短時間での成果を感じることができたと考得る。

講座開始当初は、知らない人ばかりの中で不安そうな顔をしていた子ども達だったが、楽器に触れ、講座が進むにつれて弾けるようになって、少しずつ自信がついてきたら、各個人らしい表情が出てきた。

その中で、隣にいる初対面の参加者とは、なかなか話ができなかったようだった。私やボランティアの学生には、話かけたり質問したりと会話が弾む場面もあった。もう少し時間があれば、また違った姿が見えるのかもしれない。

その他

箏と備品を搬入し、立奏台を置き、柱（じ）を立て、調絃をし、参加者用の爪を用意し、譜面台を置く。またそれを片付け、搬出する。演奏する姿は雅に見える箏も、その姿になるまでの準備が、とても大切である。

今回は、事前準備をしっかりできたことが、子ども達に三曲の演奏経験をさせることができた大きな要因であったと考える。

ボランティアの学生三名も、今回の講座をきっかけに初めて箏に触れ、事前のレクチャーを受けてから、講座時間内でのお手本演奏や、子ども達への対応を行った。その対応は素晴らしく、参加した子ども達から、「初めての人とは話ができなかったが、お姉さんとは話が出来た。」「緊張していたけれど、お姉さんが話しかけてくれて大丈夫になった。」と感想をもらった。

楽器の搬入、搬出、事前準備にあたり、お手伝い下さった方々、ボランティアの学生たちに、心から感謝をしたい。



音楽 II『手作り楽器作って遊ぼう・音遊びするものこの指と～まれ!』

講師：谷中 優 先生

講座日：平成 25 年 8 月 21 日（水曜日）

参加人数：23 名

講座内容について

本講座は身近な材料を元にした音の出るおもちゃ（楽器）の制作とそれを使った音あそび、アンサンブルの取り組みである。当初、3 種類の手作り楽器の制作を計画したが、予算の関係で 2 種類の手作り楽器を制作することにした。

アフリカの民族楽器である「クイーカ」「レイン・スティック」の二つの楽器を制作。

出典/「10 分でできる!手作り楽器の作り方・遊び方アイデア集」谷中優著 明治図書

（材料）空き缶 竹ひご ラップの芯 釘・楊枝 BB 弾

最初に制作物、作業工程の説明。作業は「クイーカ」、次に「レイン・スティック」を制作。完成した楽器での音の遊びを通して音の出し方の工夫なども体験した。その後少リズム練習を経て、本時のまとめである「ミニ・コンサート」会場の国際棟 7 階の教室に移動。箏の講座の参加児童と一緒に合同演奏会を開き、無事終了した。

講座を実施についての感想

サポート学生とは 1 度の打合せを持ち、内容、流れ、制作方法、注意点等のレクチャーを経て臨んだが、実際に学生は事前制作の体験はなかった為、当日細かい指導は難しい面があった。事前に学生に楽器づくりを体験させればよかったと反省している。それでも学生たちは、自分たちのできることをかなりしっかりと取り組んでいた。穴が大きすぎてクイーカの音が出にくかったり、BB 弾がボンドでくっついてしまったりしたのは残念。

実施についてどのような効果があったか

身の回りの材料を使ってものを作り、音あそびや音の出し方を工夫したりしたことで、いろいろなものに興味を持って取り組めたことは、子どもの創造性を育むきっかけ作りにはなったと思う。さまざまなものに興味を持ち、取り組むことは、豊かな感性や創造性の伸長につながっていくことと思う。

その他

教職員スタッフの行き届いた準備やフォローに感謝!!



理科『楽しい理科実験』

講師：林 孝憲 先生

講座日：平成 25 年 8 月 22 日（水曜日）

参加人数：25 名

講座内容について

DNA について小学生向けの解説を行い、その後、ブロッコリーから DNA を採取し、同時にレポートを作成した。また余った時間を利用し、ブーメランを製作し、屋外で飛行実験を行った。

講座実施についての感想

ブロッコリーの DNA 採取に関しては、実験手順が何段階かにわたるため、難しく感じた児童もいたかもしれないが、実験結果はどのグループも概ね成功したので、よい試みになったと思う。また長時間であったが、最後に屋外での実験も行うことができ、児童の集中力を保てることのできたと思う。

実施についてどのような効果があったか

難しい内容の事柄を少しでも身近に感じてもらえたと考えている

